

1. とうもろこしのシカゴ定期は、3月には370セント/ブッシェル前後で推移していたが、3月29日に米国農務省が発表した作付意向調査で作付面積と四半期在庫が予想を上回ったことから350セント/ブッシェル台まで値下がりした。その後も潤沢な在庫状況から弱含みな展開が続いたが、米国産地での降雨が続く、作付進捗が大幅に遅れたことから450セント/ブッシェル台まで急騰した。6月28日に米国農務省が発表した作付面積報告で、作付面積の減少が市場予想よりも小さかったことから420セント/ブッシェル前後まで値下がりしたものの、米国産地での高温乾燥予報による作柄悪化懸念から値上がりし、現在は440セント/ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、3月には340ドル/トン前後で推移していたが、米中間の貿易摩擦などにより、米国からの大豆輸出が低調に推移していることから320ドル/トン前後まで値下がりした。その後、米国産地の降雨による作付け遅れ懸念から350ドル/トン台まで値上がりしたが、天候回復により作付が進むとの期待から値下がりし、現在は340ドル/トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には40ドル/トン前後で推移していたが、中国向けの石炭や南米産大豆の輸送需要が増加したこと、原油相場が堅調に推移していることから45ドル/トン台まで値上がりした。その後、南米産とうもろこしの輸送需要の増加に加え、中国の景気刺激策としてのインフラ投資により同国向けブラジル産鉄鉱石の荷動きが急増したことから7月に入り相場は大幅に上昇し、現在は55ドル/トンを超える水準となっている。
4. 外国為替は、3月以降、好調な米国経済を背景として111円前後で推移していたが、5月に入りトランプ大統領が中国に対し追加関税を課すと表明したことにより円高が進み、現在は108円前後で推移している。

